

○はやお委員長 まず、1の請願審査から入らせていただきます。

継続審査となっております請願31-2、辺野古新基地工事の即時中止と「日米地位協定」見直しを求める請願書です。まず紹介議員からの追加説明などございましたら願いいいたします。

○木村議員 本請願書は辺野古沖の新基地建設工事の中止を求める理由として3点述べています。一つが、基地建設反対が文字どおり沖縄県民の総意であること。二つ目が、軟弱地盤や活断層、事業費といった技術的、財政的理由。そして三つ目が、自然環境へのはかり知れない影響ということでございます。

この自然環境への影響という点では、新しい新聞報道で一つの紹介がございました。新基地建設に伴って絶滅危惧種の沖縄浜サンゴ、九つの群体のうち三つの群体、3分の1が1年たつて死滅していたということが明らかになりました。今後、大浦湾の未着手の区域で埋め立てを開始するには7万7,000群体を移植する必要がある、これが実行されたら恐らくサンゴは壊滅的影響を受けることは明らかです。

さて、前回の本請願審査の中で、普天間基地の危険性についてのご質問がございました。これについて、翁長雄志元沖縄県知事が、普天間基地がどうしてできたのか、歴史的経過をみずからの著書で記されておられますので、短い文章なのでちょっとそれだけ読ませさせていただきます。

普天間基地は、米軍に強制接收されてできた基地です。改めて確認すると、沖縄は今日までみずから基地を提供したことは一度もありません。戦後の米軍占領下、住民が収容時に隔離されている間に無断で集落や畑が潰され、日本独立後も武装兵らによる銃剣とブルドーザーで居住地などが強制接收されて、住民の意思とはかかわりなく基地が次々建設されたのです。土地を奪って今日まで住民に大きな苦しみを与えておきながら、基地が老朽化したから世界一危険だから辺野古が唯一の解決策だからと沖縄が基地を負担しろ、それが嫌ならば代替案を出せと迫る。それを理不尽と言わずして何を理不尽と言うのでしょうか。こういう翁長雄志前知事の悲鳴とも言える言葉であります。ぜひ慎重の上ご審議いただきますようよろしくお願いいたします。

○はやお委員長 はい。ありがとうございます。ただいま追加説明ということで木村委員のほうからご説明いただきました。何かこの件につきまして質疑等ございましたら受けさせていただきますと思いますけれども。特によろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○はやお委員長 あと、休憩して取り扱い——あと……。

○木村議員 じゃあ、休憩いいですか。

○はやお委員長 休憩いたします。

午前10時36分休憩

午前10時40分再開

○はやお委員長 それでは、再開いたします。

木村委員。

○木村議員 この請願者の代表の方から、本請願にかかわってぜひ委員の皆さんと懇談の場を設けていただければというお話を伺っております。その請願者のお話を伺いながら当委員会としての結論を出していただければと思いますので、ぜひそういう場の設定を委員

長のほうにお願いできればと思います。

○はやお委員長 はい。ただいま木村委員のほうから懇談というお話をいただきました。この請願のほうの取り扱いルールについては、非常に個々個別、ケース・バイ・ケースになっておりますので、改選前はたしか懇談スタイルでやられたと思いますが、議長もかわられたということですので、正副で預らせていただきまして、また議長と相談した上でこの請願のことを進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうかね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○はやお委員長 はい。そうしますと、取り扱いについては継続ということによろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○はやお委員長 はい。それでは、請願31-2、これにつきましては継続という取り扱いで、そしてまたスピーディーにいろいろこのところも決めていきたいと思いますので、ご協力のほどお願いいたします。